

2013年 10月1日 NO.56



# イルカ通信

隔月 1 回発行  
バックナンバーは無料でダウンロードできます  
(下記参照)

## 「イルカの音響調査 in 父島」

今回は9月に実施したイルカの音響調査についてのお話をしたいと思います。その前にイルカの音について少しだけ。皆さんもドルフィンスイム中、イルカの音（鳴き声）を聞いたことがあるかと思います。イルカの発する音は、その性質によって大きく「パルス鳴音」と「ホイッスル」の2つに分けられます。

「パルス鳴音」とは、エコーケーションに使用されるものを「クリックス」と呼び、ギリギリと聞こえる威嚇音は「バーストパルス」と呼ばれています。マッコウクジラのクリックスは水中マイクを使用すれば、聞くことができますよね。しかし、ハンドウイルカのクリックス周波数は、110~130kHzと報告されているので、人間の耳では聞くことが出来ません（人間の可聴帯域は20kHzまでと言われている）。

そしてもう一つの音である口笛のように聞こえる「ホイッスル」は、持続時間が長い連続音で、お互いどこにいるのかを群れのメンバーに伝え、群れを維持するための音と考えられています。

父島の沿岸付近に生息しているミナミハンドウイルカやハシナガイルカもこのホイッスルを発しているの、それぞれの特性が分かれば、鳴き声から種類を見分けられると考えています。そこでOWAでは帝京科学大学と共同で、専用の水中マイクでイルカのホイッスルを録音し、その特性を明らかにしようとしています。

この録音に使用する水中マイクは、大きさが20センチほどの円柱状の形をしていて、最長で200時間録音することができるのです。

調査は9月3日から12日にかけて行い、下の写真のように、マイクを腰に取り付けて、個体識別調査を同時に行いながらの録音やマイクだけを水中に沈めたりなど、様々な方法で収録しました。



音響調査中の写真

録音した音声の中には、甲殻類が出していると思われるパチパチという雑音だけが入っていて、イルカの鳴き声が全く入っていないこともありました。今回の調査で録音したデータは、小笠原に来てくれた学生さんが解析中ですので、結果が分かりましたら、イルカ通信でもお知らせしたいと思います。ぜひご期待下さい。



調査で使った水中マイク



船上でマイクのセッティングをする学生さん